

農業の新しい技術

No. 564(平成17年11月)

分類コード 01-09

熊本県農政部

カンキツ新品種「肥のみらい」の特性

農業研究センター 果樹研究所常緑果樹研究室

担当者：坂西 英

研究のねらい

贈答用や家庭用のみかんが最も消費される時期である12月上旬から出荷可能で、食味が優れ、栽培しやすい品種を育成する。

研究の成果

< 来 歴 >

「肥のみらい」は、1994年に「白川」変異系を種子親に「はるみ」を交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生変異種である。本系統の特性は以下のとおりである。

< 特 性 >

1. 「白川」と比較して、樹勢がやや弱く、「興津早生」より強い。また、「白川」と比較し、春梢は基部径が細く、長さは短く、徒長枝の発生は少ない(表1)。
2. 果実は扁平で、玉揃いが良く、11月中旬には完全着色し、「白川」より着色が早く、果皮色は強い傾向にある。また、このころから浮皮が発生しやすくなる(表2)。
3. 「白川」と比較して、中袋が軟らかいため食べやすく、果汁成分は、糖度がやや高く、クエン酸がやや低く食味良好である(表2)。

以上のことから「肥のみらい」は、「白川」に比べ樹勢がやや弱く、連年結果性が高いため栽培しやすい。また、果実は「白川」より着色が早く、食味も優れるが、完全着色期より浮皮が発生することから11月中旬には収穫し、予措貯蔵後、12月上旬から出荷する。

普及上の留意点

1. 「肥のみらい」は、県内の温州ミカン栽培地域において、温暖で日照条件が良く排水良好な園に適する。
2. 結果期に至るまで、葉数を確保し、適正な樹勢を維持することが必要である。また、結果期以降はマルチ栽培を行うことにより、さらに特長が発揮できる。
3. ウイルス・ウイロイド対策として、高接ぎ樹からの穂木採取は行わない。

表1 「肥のみらい」の樹体、葉、枝梢の形態(2004年)

品種名	樹姿	樹勢	春葉				春梢		
			葉身長	葉幅	葉柄長	葉面積	基部径	長さ	節間長
			cm	cm	cm	cm ²	cm	cm	cm
肥のみらい	竹開張	竹強	10.8	4.5	2.0	32.9	3.3	20.6	2.2
白川	中間	強	11.2	4.6	1.8	35.7	4.3	22.5	2.4
興津早生	開張	中	9.0	4.2	1.8	23.7	3.7	16.9	2.1

表2 「肥のみらい」の果実形態(2005年)

品種名	果実の形		果心の 充実度 ^{a)}	果皮色(ハンター値)			
	果形	指数		L	a	b	a/b値
肥のみらい	扁平	139.4	20.5	68.0	25.6	65.9	0.39
白川	扁平	140.1	22.3	70.6	20.7	70.2	0.30
興津早生	扁平	121.8	16.7	69.1	25.8	67.0	0.39

注) ^{a)} 果心の充実度は果心径/果実横径 × 100

表3 「肥のみらい」の果汁成分(2000~2002年)

品種名	平均	糖度 (Brix)	クエン酸 含量	糖酸比	果皮色 ^{a)} (ル-ル-値)	浮皮 指数	食味 ^{b)}
	果重						
		g	g/100ml				
肥のみらい	157.0	12.2	0.80	16.0	6.8	0.22	3.6
白川	143.5	11.5	0.98	12.1	5.1	0.00	2.6
興津早生	140.6	11.7	0.93	12.6	7.2	0.17	2.3

注) 調査日は、2000.11.14、2001.11.27、2002.11.27

a) 旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャートを用い、果頂部を測定

b) 食味は不良(1)、中(3)、良好(5) 5段階評価した



写真1 「肥のみらい」の着果状況



写真2 「肥のみらい」果実5方向